

豊橋市文化芸術振興計画<2026~2035>  
(素案)に対する市民等からの意見について

○意見募集期間

2026(令和8)年2月2日(月)~2026(令和8)年3月4日(水)

○意見件数

4件(うち、個人4件、法人その他の団体0件)

○意見提出方法内訳

持参:1件

意見提出フォーム:3件

○意見内容と意見に対する市の見解

寄せられた意見内容及び意見に対する市の見解は以下のとおりです。

- ・原則、ご提出いただいたご意見をそのまま掲載しています。
- ・意見内容は原則、提出日順に掲載しています。
- ・豊橋市情報公開条例に基づく個人情報等の非公開情報は非公開とします。

No	意見内容	市の考え方
1	<p>大学生から社会人世代に向けた文化活動の周知が、十分に行き届いていないように感じています。多くのイベントは、子ども向けや高齢者向けのものが中心であり、大学生や20代前半の若者にとっては「自分たちとは関係のないもの」「興味を持ちにくいもの」と捉えられがちです。特に、プラットや美術館などで行われている文化活動は、意識の高い一部の若者を除くと、そもそも知ろうとしない場になってしまっている現状があると感じます。</p> <p>また、若者世代にとっては、イベントの存在自体を知らないことが大きな課題であると考えます。活動を広げていくためには、InstagramなどのSNSを積極的に活用し、まず「イベントが行われていること」を知ってもらう工夫が必要だと思います。</p> <p>今後は、大学生やティーンエイジャーなど、若者世代に焦点を当てた取り組みをより増やしていくことが重要ではないでしょうか。例えば、若者に人気のある芸能人や、流行しているコンテンツを取り入れることで、文化活動への心理的なハードルを下げることができると考えます。若者はSNSを通じて情報を広める力にも長けているため、そうした層に届く企画が実現すれば、文化活動のさらなる発展につながるのではないかと思います。</p> <p>具体的な方法については模索が必要ですが、大学生や20代前半など、文化活動にあまり馴染みのない世代に向けて、真面目すぎず、ラフで親しみやすい雰囲気イベントを実施することも一つの有効な手段であると考えます。</p>	<p>今後、計画を推進していく上での参考にさせていただきます。</p>



No	意見内容	市の考え方
4	<p>茶道文化を残し、広めるための施策を増やしてほしいです。  私は子供の頃から茶道に親しみ、お茶の先生をしています。豊橋は茶道の流派も多く、茶道人口も多いと感じていました。家元的なものがある流派もあります。  しかし、コロナ禍を経て、豊橋茶道クラブの所属流派も3流派減り、先生がどんどんいなくなっています。私自身小学校のお茶クラブに教えにいたり、知り合いと話していて、お茶に興味を持っている人が今でも多くいると感じています。私の流派はお客様のリピーター増えています。ただ先生がいなくなると茶道文化が一度なくなると危惧しています。私がお茶の先生が少ない主な理由は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. お茶の先生になるのにかなりいろいろな知識や技術を覚える必要があること</li> <li>2. 準備や片付け等にかなり時間がかかるが、収入はないこともあること。  (お茶クラブなどもボランティアが当たり前になっている)</li> <li>3. 道具などもある程度集めたり、それを保管する場所、教える場所も必要であること。</li> <li>4. 豊橋市も茶道文化に重きをおかなかったこと。</li> <li>5. 茶道関係者も積極的に考えてこなかったこと。</li> </ol> <p>富裕層中心にお茶文化を支え、専業主婦が多かった時代は終わり、今は生活に余裕がある人が減っています。経済的・時間的余裕がある人しかできない状況であると、茶道文化はなくなります。計画にあることも教室だけでは茶道文化は維持できません。私も演劇や音楽も好きなので、そういった文化に力を入れられているのはありがたいです。しかし、茶道文化の担い手の育成に時間がかかるからこそ長期計画にとりいれていただきたいです。</p> <p>茶道は老若男女親しめるものであり、国際的な人を育てたり、心の安定の場所としてもますます大切になると信じています。豊橋の強みになりえます。茶道関係者の努力も必要ですが、それだけでは限界があります。三の丸会館等の利用の仕方も含め、ご検討よろしくお願ひ申し上げます。</p>	<p>いただいたご意見は、参考意見として受け止めさせていただきます。</p>